飛鳥資料館の特別展示

飛鳥資料館

特別展示『レンズを通した飛鳥』 当館の展示の特色の一つは，展示品の後に大パネルを立て，作品を効果的に引立たせるところにある。その裏方役を主人公にした企画である。全体を①実大の飛鳥，②立体の飛鳥，③作家の飛鳥の三部構成にした，実大の飛鳥では山田寺回廊の出土状況を床貼りに展示し，その上を入館者が歩いて，足下の写真を見てもらった。立体の飛鳥は，飛鳥の夜明けから，二上山のサンセットまでの番組を製作し，地階講堂を3D（立体映像）上映館とした。博物館施設では最初の3D製作となった。作家の作品は，入江泰吉氏，井上博道氏による飛鳥の風景を展示した。さらに井上直夫所員による労作「光と影の飛鳥」の作品集も加わった。図録に代わって，当館のイメージとなっている「復原・万葉の世界」を絵はがきにした。

特別展示『日本書紀を掘る』 飛鳥の発掘は，日本書紀をよりどころとする古典考古学である。日本書紀とかかわりのある出土品，伝世品をピックアップして，当館の得意とする復原のディスプレーを試みた。石人像の欠失部分を復原し，饗宴場での噴水展示をした。また「阿不幾乃山陵記」をもとに，天武・持統陵の石室内部を再現した。原色と迫力に富み，強烈に視覚に訴えた。山田寺仏頭に金箔を貼り往時の化粧にもどした。これらは，主として館員の工作によるところが多かったが，石人像については，左野勝司氏の製作と寄贈があった。なお，本展は，当館開館15周年記念展として，㈶飛鳥保存財団と共催した。（猪熊兼勝）